

編集 後記

編集顧問 町田豊平 小川秋實 秋元成太

編集委員 村井 勝 郡 健二郎 藤岡知昭

小誌がお手元に届く頃は、受験シーズン真最中。誰もが歩んできた道とはいえ、受験生と保護者は大変なことだと思います。努力された人には幸あれと心より祈っています。

医学部の入試には医師を養成するという性格上、面接があります。いつから始まったかは定かではありませんが、今ではほとんどの大学で採用されています。大学評価学位授与機構は入試面接をしていない大学には低い評価をするとの指導（脅し）もあり、入試面接を始めた大学もあると聞きます。もし本当だとすれば、大学の独自性が失われかねず、本末転倒なことです。

入試面接が、優れた医師や研究者を養成するのにどれほど効果があるのか、という疑問は常に指摘されてきました。短い時間で人を評価できるのか、人の一生を面接という主観で決めてよいのかという、入試面接に否定的な意見もあります。

受験生の面接に対する準備は、試験官よりはるかにされていることも問題です。予備校などでは面接の練習をし、入試当日に質問された内容はすでに履修済みのことが多いと聞きます。入試面接がテクニクとなっているのです。これではややもすると、表面上だけの優等生を採用していることになりかねません。

面接で高得点を取る受験生は、おおむね女子学生と社会人。私の大学時代を思い起こしても、20歳足らずの男子学生が教官の前で、よどみなくインパクトのある返答をするとは考えられず、私たちの時代に入試面接がなかったことは幸いだったと思いながら面接にあたっています。

入試面接ではじめにされる質問は決まって、「なぜこの大学を受験しましたか？」。続いて「なぜ医師になろうと思うのですか？」です。これら想定内の質問に受験生は余裕を取り戻して答えますが、カンニング(?)をしたのかと疑わんばかりに同じ答えが続きます。

「患者さんに優しい医者になりたい」

立派な答えなのですが、どこか深みが感じられず物足りなさが残ります。18歳の学生にこれ以上求めるのはかわいそうですが、心に響くものではありません。

私は大学生時代、何の講義か忘れましたが、その中で、「君たちは大医になれ。中国のことわざに『小医は病を癒し、中医は人を癒し、大医は国を癒す』がある」との話が印象的で、せめて中医にはなりたいたいと思ってきました。

最近私が心を打たれた韓流ドラマに「ホ・ジュン」があります。16世紀に実在した医師の話です。身分制度が過酷な世の中で、賤民から王を診る医師にまで登り詰めたホ・ジュン。人としての生き方を教えられます。「矜恤（きょうじゅつ）の心をもつ真の医師『心医』とは？」を改めて考えさせられるドラマです。

17世紀フランスの外科医パレがいう「時に治すことができる。しばしば和らげることができる。慰めることはいつでもできる。医学はいつでもできることをしばしば放棄して、時々しかできない治すことに集中している」に通ずるものです。あるべき医師の姿は、古今東西同じです。面接を通じて、「心医」の卵を選びたいものです。
(郡 健二郎)

臨床泌尿器科 (第61巻 第2号) (通巻725号)

2007年2月20日発行 (毎月1回20日発行)

定価 2,835 円 (本体 2,700 円 + 税 5%)

2007年 年ぎめ予約購読料 (増刊号を含む13冊)

41,360 円 (税込・送料サービス)

発行 株式会社 医学書院

代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3

電話 本誌編集室直通 (03) 3817-5709 (担当 渡辺・中田)

販売部直通 (03) 3817-5659・5660

ファクシミリ (03) 3815-7802

E-mail: rinpi@igaku-shoin.co.jp

振替口座 東京 00170-9-96693 番

印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005

広告申込所 (有)文京メディカル 電話 (03) 3817-8036

・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd., 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2007, Printed in Japan.

・ 本誌に掲載された著作物の複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信 (送信可能化権を含む) に関する許諾権は医学書院が保有しています。

・ 医学書院ホームページ (インターネット) は Web <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。

・ 「臨床泌尿器科」のページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/rinpi/> です。

・ JCLIS < 日本著作出版権管理システム委託出版物 >

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に日本著作出版権管理システム (03-3817-5670) の許諾を得てください。